

学校コード F105210101068

注3

設置年度 令和 4 年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

届出

注2

秋田県立大学大学院 システム科学技術研究科博士前期課程 総合システム工学専攻

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

公立大学法人 秋田県立大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 本荘キャンパス教務チーム

職名・氏名 チームリーダー タムラ マコト 田村 誠

電話番号 0184-27-2027

（夜間） 0184-27-2027

e-mail tamura@akita-pu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

システム科学技術研究科

＜総合システム工学専攻＞

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人秋田県立大学

(2) 大学名 秋田県立大学

(3) 調査対象大学等の位置

本荘キャンパス 〒015-0055
秋田県由利本荘市土谷海老ノ口84番4号
(秋田キャンパス 〒010-0195
秋田県秋田市下新城野字街道端西241番438)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コバヤシ ジュンイチ) 小林 淳一 (平成29年4月)		
学長	(コバヤシ ジュンイチ) 小林 淳一 (平成29年4月)		
研究科長	(ミズノ マモル) 水野 衛 (令和2年4月)		
専攻長等	(ミズノ マモル) 水野 衛 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
システム科学技術研究科 総合システム工学専攻 修士(工学)	工学関係	2 年	42 人	年次 人	84 人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	1.52倍	一倍	
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	42			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	-			
志願者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	73			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	-			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
受験者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	73			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	-			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
合格者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	66			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	-			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
B 入学者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	64			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	-			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
入学定員超過率 B/A												1.52			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	平成30年度		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	64 [-] [-]	- [-] [-]	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)
4年次	/						/		/		[] ()
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()					[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	64 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{64} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<システム科学技術研究科 博士前期課程 総合システム工学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎・学際科目	プレゼンテーション	1後	2			1	1				1
	実践英語A	1前	2								1
	英語プレゼンテーションA	1後	2								1
	風土・文化構造論	1・2前	2								1
	科学技術と倫理	1・2前	2								1
	感性情報と環境の心理	1・2前	2								1
	地域社会と家族	1・2後	2								1
	生体情報と運動の生理	1・2前	2								1
	知的所有権論A	1前	2			4	1				
	標準化論A	1後	2			2					2
	信頼性工学A	1前	2			4					
	工学的失敗論A	1後	2			3					
	インターンシップ	1・2通		2	1						
	現役社長の講話	1後	1			1					
	リスク管理エンジニアリング	1前	2			1					
小計(15科目)	-		27	2	16	3					10
コース共通	総合システム工学専門セミナー	1通	4			25	27				
	総合システム工学特別研究	1・2通	8			25	27				
	地域志向プロジェクト	1前	2			2					
	輸送機械特論	1前	2			1	1				
	輸送機械特別研修I	1通		1	1						
	輸送機械特別研修II	1通		1	1						
	木質資源循環論	1前	2								3
	スマート農業	1前	2			2	4				6
	データ駆動型社会論	1前	2			1	1				
	再生可能エネルギー特論	1前	2			1	1				
専攻科目	固体力学	1前	2			1					1
	ナノ材料学	1前	2								
	機械力学特論	1後	2				1				
	先端材料強度特論	1後	2		1						
	熱工学特論	1前	2		1						
	計算力学特論	1前	2		1						
	流体力学特論	1前	2		1						
	燃焼工学	1後	2		1						
	三次元CAD運用論	1前	2				1				
	機械構成論	1前	2				1				
知能メカトロニクスコース	高度数値シミュレーション学	1前	2			4	2				1
	プラズマ工学	1後	2								1
	人間機械系設計論	1後	2			1					
	エネルギーシステム学特論	1後	2				1				
	先端加工学	1後	2		1						
	プラズマ物理学	1前	2			1					
	システム制御工学特論	1前	2		1						
	計測学特論	1前	2			1					
	数理最適化特論	1前	2			1					
	通信システム特論	1後	2								1
エネルギー変換工学特論	1後	2			1						
光機能デバイス工学	1前	2		1							
固体物性工学特論	1前	2		1							
半導体材料・プロセス工学	1後	2		1							
電子デバイス工学特論	1後	2			1						
ロボット工学特論	1前	2								1	
制御工学特論	1前	2			1						
メカトロニクス特論	1後	2		1							
バイオエンジニアリング特論	1後	2			1						
機械知能学特論	1後	2			1						

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎・学際科目	プレゼンテーション	1後	2			1	1				1
	実践英語A	1前	2								1
	英語プレゼンテーションA	1後	2								1
	風土・文化構造論	1・2前	2								1
	科学技術と倫理	1・2前	2								1
	感性情報と環境の心理	1・2前	2								1
	地域社会と家族	1・2後	2								1
	生体情報と運動の生理	1・2前	2								1
	知的所有権論A	1前	2			4	1				
	標準化論A	1後	2			2					2
	信頼性工学A	1前	2			4					
	工学的失敗論A	1後	2			3					
	インターンシップ	1・2通		2	1						
	現役社長の講話	1後	1			1					
	リスク管理エンジニアリング	1前	2			1					
小計(15科目)	-		27	2	16	3					10
コース共通	総合システム工学専門セミナー	1通	4			25	27				
	総合システム工学特別研究	1・2通	8			25	27				
	地域志向プロジェクト	1前	2			2					
	輸送機械特論	1前	2			1	1				
	輸送機械特別研修I	1通		1	1						
	輸送機械特別研修II	1通		1	1						
	木質資源循環論	1前	2								3
	スマート農業	1前	2			2	4				6
	データ駆動型社会論	1前	2			1	1				
	再生可能エネルギー特論	1前	2			1	1				
専攻科目	固体力学	1前	2			1					1
	ナノ材料学	1前	2								
	機械力学特論	1後	2				1				
	先端材料強度特論	1後	2		1						
	熱工学特論	1前	2		1						
	計算力学特論	1前	2		1						
	流体力学特論	1前	2		1						
	燃焼工学	1後	2		1						
	三次元CAD運用論	1前	2				1				
	機械構成論	1前	2				1				
高度数値シミュレーション学	1前	2			4	2				1	
プラズマ工学	1後	2								1	
人間機械系設計論	1後	2			1						
エネルギーシステム学特論	1後	2				1					
先端加工学	1後	2		1							
プラズマ物理学	1前	2			1						
システム制御工学特論	1前	2		1							
計測学特論	1前	2			1						
数理最適化特論	1前	2			1						
通信システム特論	1後	2								1	
エネルギー変換工学特論	1後	2			1						
光機能デバイス工学	1前	2		1							
固体物性工学特論	1前	2		1							
半導体材料・プロセス工学	1後	2		1							
電子デバイス工学特論	1後	2			1						
ロボット工学特論	1前	2								1	
制御工学特論	1前	2			1						
メカトロニクス特論	1後	2		1							
バイオエンジニアリング特論	1後	2			1						
機械知能学特論	1後	2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報工学コース	画像情報学特論	1前		2		1						
	情報数理論	1前		2		1						
	自然言語処理	1前		2		1						
	情報ネットワーク特論	1後		2		1						
	数値解析学特論	1後		2		1						
	デジタル信号処理特論	1後		2		1						
	音響情報工学	1前		2		1						
	音信号処理特論	1後		2		1						
	パターン認識特論	1後		2		1						
	統計的信号処理	1前		2		1						
専 門 科 目	建築塑性論	1前		2		1						
	建築構造解析論	1前		2		1						
	建築荷重論	1前		2		1						
	建築構造設計論	1後		2		1						
	建築基礎構造論	1後		2		1						
	建築振動論	1後		2		1						
	建築材料工学	1前		2		1	1					
	木質構造設計実習	1前		2		3						
	木質構造設計論	1後		2		3						
	木質構造実習	1前		2		1	1					
	視環境・色彩計画学	1前		2		1	1					
	建築設備設計論	1前		2		2						
	建築環境設計論	1後		2		1	1				1	
	都市環境論	1後		2		1					1	
	都市計画学	1前		2		1						
	都市防災学	1前		2		1					1	
	都市・建築設計論	1後		2		1					1	
	都市・建築史論	1前		2		1					1	
	都市・建築設計(演習)A	1前~2後		2		3	1					
	都市・建築設計(演習)B	1後~2後		2		3	1					
都市・建築設計(演習)C	2前~2後		2		3	1						
建築インターンシップ研修A	1・2通		2		1					1		
建築インターンシップ研修B	1・2通		2		1					1		
建築インターンシップ研修C	1・2通		2		1					1		
建築インターンシップ研修D	1・2通		2		1					1		
建築インターンシップ研修E	1・2通		2		1					1		
建築インターンシップ研修F	1・2通		2		1					1		
建築インターンシップ研修G	1・2通		2		1					1		
建築プロジェクト実習	1・2通		2		1					1		
経営システム工学コース	会計システム論	1後		2		1						
	応用情報処理特論	1後		2		1						
	経営情報システム特論	1前		2		1						
	応用確率統計特論	1前		2		1						
	経営数理解析特論	1前		2		1						
	実践経営工学	1前		2		1						
	経営経済学	1後		2		1						
	システム構築論	1前		2		1						
	環境型生産管理論	1後		2		1						
	環境リスク管理技術特論	1前		2		1						1
	ライフサイクルデザイン製品技術論	1後		2		1						1
	ライフサイクルアセスメント	1前		2		1						1
	分析化学特論	1前		2		1						
地域産業活性演習	1後		2		1							
小計(93科目)			12	164	16	25	27				20	
合計(108科目)		-	12	191	18	41	30				30	
卒業要件及び履修方法												
共通基礎・学際科目から6単位以上、専門科目から必修12単位を含む24単位以上を修得し、うち10単位以上は所属するコースの専門選択科目から修得すること。また、2単位以上を所属コース以外の専門選択科目(コース共通、他コース選択、他専攻、他研究科含む)から修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報工学コース	画像情報学特論	1前		2		1						
	情報数理論	1前		2		1						
	自然言語処理	1前		2		1						
	情報ネットワーク特論	1後		2		1						
	数値解析学特論	1後		2		1						
	デジタル信号処理特論	1後		2		1						
	音響情報工学	1前		2		1						
	音信号処理特論	1後		2		1						
	パターン認識特論	1後		2		1						
	統計的信号処理	1前		2		1						
専 門 科 目	建築塑性論	1前		2		1						
	建築構造解析論	1前		2		1						
	建築荷重論	1前		2		1						
	建築構造設計論	1後		2		1						
	建築基礎構造論	1後		2		1						
	建築振動論	1後		2		1						
	建築材料工学	1前		2		1	1					
	木質構造設計実習	1前		2		3						
	木質構造設計論	1後		2		3						
	木質構造実習	1前		2		1	1					
	視環境・色彩計画学	1前		2		1	1					
	建築設備設計論	1前		2		2						
	建築環境設計論	1後		2		1	1					1
	都市環境論	1後		2		1						1
	都市計画学	1前		2		1						
	都市防災学	1前		2		1						1
	都市・建築設計論	1後		2		1						1
	都市・建築史論	1前		2		1						1
	都市・建築設計(演習)A	1前~2後		2		3	1					
	都市・建築設計(演習)B	1後~2後		2		3	1					
都市・建築設計(演習)C	2前~2後		2		3	1						
建築インターンシップ研修A	1・2通		2		1						1	
建築インターンシップ研修B	1・2通		2		1						1	
建築インターンシップ研修C	1・2通		2		1						1	
建築インターンシップ研修D	1・2通		2		1						1	
建築インターンシップ研修E	1・2通		2		1						1	
建築インターンシップ研修F	1・2通		2		1						1	
建築インターンシップ研修G	1・2通		2		1						1	
建築プロジェクト実習	1・2通		2		1						1	
経営システム工学コース	会計システム論	1後		2		1						
	応用情報処理特論	1後		2		1						
	経営情報システム特論	1前		2		1						
	応用確率統計特論	1前		2		1						
	経営数理解析特論	1前		2		1						
	実践経営工学	1前		2		1						
	経営経済学	1後		2		1						
	システム構築論	1前		2		1						
	環境型生産管理論	1後		2		1						
	環境リスク管理技術特論	1前		2		1						
	ライフサイクルデザイン製品技術論	1後		2		1						
	ライフサイクルアセスメント	1前		2		1						
	分析化学特論	1前		2		1						
地域産業活性演習	1後		2		1							
小計(93科目)			12	164	16	25	27				20	
合計(108科目)		-	12	191	18	41	30				30	
卒業要件及び履修方法												
共通基礎・学際科目から6単位以上、専門科目から必修12単位を含む24単位以上を修得し、うち10単位以上は所属するコースの専門選択科目から修得すること。また、2単位以上を所属コース以外の専門選択科目(コース共通、他コース選択、他専攻、他研究科含む)から修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) -②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし

- (注) ・ 2(1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	96 科目	10 科目	108 科目	2 科目 [0]	97 科目 [0]	10 科目 [0]	108 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	木質資源循環論	2	1前	専門	選択	隔年開講の科目であり、今年度は未開講である。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「木質資源循環論」は、研究科再編前より開講してきた隔年開講科目であり、再編後もその予定を变えることはなかった。
今年度履修不可であることは学生に学内教務システム等により周知をしており、問い合わせや登録申込等はなかった。
令和5年度は開講予定である。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{108} = \boxed{0.92} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	372,064㎡	0㎡	0㎡	372,064㎡			
	運 動 場 用 地	300,119㎡	0㎡	0㎡	300,119㎡			
	小 計	672,183㎡	0㎡	0㎡	672,183㎡			
	そ の 他	2,146,572㎡	0㎡	0㎡	2,146,572㎡			
	合 計	2,818,755㎡	0㎡	0㎡	2,818,755㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		92,279㎡ (92,279㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	92,279㎡ (92,279㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	32室	17室	224室	9室 (補助職員 2人)	2室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		R4.4専任教授1名辞任のため(4)		
	システム科学技術研究科総合システム工学専攻			(例) 5 1 5-2 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科単位での算出不可 可能なため、学部との 合算。
	システム科学技術研究科総合システム工学専攻	135,641 [32,944] (135,641 [32,944])	4,708 [3,811] (4,708 [3,811])	3,352 [3,342] (3,352 [3,342])	2,270 (2,270)	1,663 (1,663)	— (—)	
	計	135,641 [32,944] (135,641 [32,944])	4,708 [3,811] (4,708 [3,811])	2,650 [2,640] (2,650 [2,640])	2,270 (2,270)	1,663 (1,663)	— (—)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	4,769㎡		629		316,138			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体
	4,199㎡		ト レ ー ニ ン グ ル ー ム		314㎡ (2室)			
			テ ニ ス コ ー ト		10面			
			野 球 場		1 (両翼100m)			
陸 上 競 技 場			2 (400m/周)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は研究 科単位での算出不可 可能なため、学部との 合算。 図書費には電子 ジャーナル、デー タベースの整備費(運用 コストを含む)も含 まれる。
	教員1人当り研究費等	997千円	972千円	図書購入費	22,500千円	22,800千円	22,800千円	
	共同研究費等	178,315千円	178,315千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 818千円	第2年次 536千円	第3年次 —千円	第4年次 —千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		運営交付金(秋田県)、受託研究事業収入 等					

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	秋 田 県 立 大 学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備 考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度		
システム科学技術学部	4	240	-	960		1.06	1.02	-				
機械工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.07	1.08	-	平成30			
知能メカトロニクス学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.04	0.97	-	平成30			
情報工学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.09	0.98	-	平成30	秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84番4		
建築環境システム学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.00	1.03	-	平成11			
経営システム工学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.08	1.03	-	平成11			
機械知能システム学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成11			平成30年度より学生募集停止
電子情報システム学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成11			平成30年度より学生募集停止
生物資源科学部	4	150	-	600	-	1.07	1.08	令和2	平成25			
応用生物科学科	4	40	-	160	学士(生物資源科学)	1.07	1.03	令和2	平成25		秋田県秋田市下新城中野字街道端西241番438	
生物生産科学科	4	40	-	160	学士(生物資源科学)	1.06	1.08	令和2	平成25			
生物環境科学科	4	30	-	120	学士(生物資源科学)	1.09	1.10	令和2	平成25			
アグリビジネス学科	4	40	-	160	学士(農学)	1.07	1.13	令和2	平成25	秋田県南秋田郡大湯村字南2丁目2番地		
大学全体	-	390		1,560	-	-	-	-	-	-		

大学の名称	〇〇大学大学院					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	2	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
システム科学技術研究科		58		124		1.34	1.34				
総合システム工学専攻(博士前期課程)	2	42	-	84	修士(工学)	1.52	1.52	-	令和4		
先端サステナブル専攻(博士前期課程)	2	8	-	16	修士(工学)	1.13	1.13	-	令和4		
機械知能システム専攻(博士前期課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成14		
電子情報システム専攻(博士前期課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成14	秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84番4	令和4年度より学生募集停止
建築環境システム専攻(博士前期課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成14		令和4年度より学生募集停止
経営システム工学専攻(博士前期課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成14		令和4年度より学生募集停止
共同ライフサイエンス専攻(博士前期課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成24		令和4年度より学生募集停止
総合システム科学専攻(博士後期課程)	3	8	-	24	博士(工学)	-	-	-	平成14		令和4年度より学生募集停止
生物資源科学研究科		33	-	71	-	0.90	1.06	-			
生物資源科学専攻(博士後期課程)	2	28	-	56	修士(生物資源科学)	0.89	1.07	-	平成23	秋田県秋田市下新城中野字街道端西241番438	
生物資源科学専攻(博士前期課程)	3	5		15	博士(生物資源科学)	0.93	1.00		平成23		
大学院全体	-	91	-	195	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<システム科学技術研究科博士前期課程 総合システム工学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	邱 建輝 (59) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 固体力学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授 (研究 科長)	水野 衛 (57) <令和4年4月> 工学博士
		信頼性工学A 先端材料強度特論 再生可能エネルギー特論 高度数値シミュレーション学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	鶴田 俊 (63) <令和4年4月> 工学博士
		リスク管理エンジニアリング 高度数値シミュレーション学 燃烧工学 熱工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	石本 志高 (50) <令和4年4月> D.Phil(数理科学)
		流体力学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	邱 建輝 (59) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 固体力学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授 (研究 科長)	水野 衛 (57) <令和4年4月> 工学博士
		信頼性工学A 先端材料強度特論 再生可能エネルギー特論 高度数値シミュレーション学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	鶴田 俊 (64) <令和4年4月> 工学博士
		リスク管理エンジニアリング 高度数値シミュレーション学 燃烧工学 熱工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	石本 志高 (50) <令和4年4月> D.Phil(数理科学)
		流体力学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 明 (64) <令和4年4月> 工学博士
		計算力学特論 高度数値シミュレーション学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	富岡 隆弘 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		工学的失敗論A 輸送機械特論 人間機械系設計論 高度数値シミュレーション学 輸送機械特別研修Ⅰ 輸送機械特別研修Ⅱ 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	鈴木 庸久 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 標準化論A 地域志向プロジェクト 先端加工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	齋藤 直樹 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		スマート農業 メカトロニクス特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	徐 粒 (65) <令和4年4月> 博士(工学)
		システム制御工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 明 (64) <令和4年4月> 工学博士
		計算力学特論 高度数値シミュレーション学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	富岡 隆弘 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		工学的失敗論A 輸送機械特論 人間機械系設計論 高度数値シミュレーション学 輸送機械特別研修Ⅰ 輸送機械特別研修Ⅱ 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	鈴木 庸久 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 標準化論A 地域志向プロジェクト 先端加工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	齋藤 直樹 (49) <令和4年4月> 博士(工学)
		スマート農業 メカトロニクス特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	徐 粒 (65) <令和4年4月> 博士(工学)
		システム制御工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小谷 光司 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		工学的失敗論A 半導体材料・プロセス工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	能勢 敏明 (62) <令和4年4月> 博士(工学)
		プレゼンテーション 光機能デバイス工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	堂坂 浩二 (60) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		信頼性工学A データ駆動型社会論 自然言語処理 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	西口 正之 (63) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 音信号処理特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	陳 国躍 (60) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		パターン認識特論 情報ネットワーク特論 機械知能学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	猿田 和樹 (53) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		パターン認識特論 情報ネットワーク特論 機械知能学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小谷 光司 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		工学的失敗論A 半導体材料・プロセス工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	能勢 敏明 (62) <令和4年4月> 博士(工学)
		プレゼンテーション 光機能デバイス工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	堂坂 浩二 (60) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		信頼性工学A データ駆動型社会論 自然言語処理 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	西口 正之 (63) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 音信号処理特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	陳 国躍 (60) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		パターン認識特論 情報ネットワーク特論 機械知能学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	猿田 和樹 (53) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		パターン認識特論 情報ネットワーク特論 機械知能学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 哲也 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		工学的失敗論A 建築塑性論 建築構造設計論 木質構造設計実習 木質構造設計論 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	菅野 秀人 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		インターンシップ 建築荷重論 建築振動論 木質構造設計実習 木質構造設計論 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	板垣 直行 (53) <令和4年4月> 博士(工学)
		信頼性工学A 建築材料工学 木質構造設計実習 木質構造設計論 木質構造実習 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	松本 真一 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 視環境・色彩計画学 建築設備設計論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	西田 哲也 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		工学的失敗論A 建築塑性論 建築構造設計論 木質構造設計実習 木質構造設計論 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	菅野 秀人 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		インターンシップ 建築荷重論 建築振動論 木質構造設計実習 木質構造設計論 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	板垣 直行 (53) <令和4年4月> 博士(工学)
		信頼性工学A 建築材料工学 木質構造設計実習 木質構造設計論 木質構造実習 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	松本 真一 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		知的所有権論A 視環境・色彩計画学 建築設備設計論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	長谷川 兼一 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		標準化論A 建築環境設計論 都市環境論 建築設備設計論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	山口 邦雄 (65) <令和4年4月> 博士(工学)
		地域志向プロジェクト 都市計画学 都市・建築史論 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	朴 元熙 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		会計システム論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	木村 寛 (52) <令和4年4月> 博士(理学)
		信頼性工学A 応用確率統計特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	宮本 道子 (63) <令和4年4月> 博士(経営学)
		総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	山口 高康 (49) <令和4年4月> 博士(工学)
		システム構築論 スマート農業 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	長谷川 兼一 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		標準化論A 建築環境設計論 都市環境論 建築設備設計論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	山口 邦雄 (65) <令和4年4月> 博士(工学)
		地域志向プロジェクト 都市計画学 都市・建築史論 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	朴 元熙 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		会計システム論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	木村 寛 (52) <令和4年4月> 博士(理学)
		信頼性工学A 応用確率統計特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	山口 高康 (49) <令和4年4月> 博士(工学)
		システム構築論 スマート農業 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	境 英一 (39) <令和4年4月> 博士(工学)
		総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	伊藤 伸 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		高度数値シミュレーション学 機械力学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	伊藤 一志 (42) <令和4年4月> 博士(工学)
		総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	高橋 武彦 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		輸送機械特論 三次元CAD運用論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	須知 成光 (52) <令和4年4月> 博士(工学)
		高度数値シミュレーション学 エネルギーシステム学特論 再生可能エネルギー特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	野村 光由 (45) <令和4年4月> 博士(工学)
		機械構成論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	佐藤 俊之 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		制御工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	境 英一 (39) <令和4年4月> 博士(工学)
		総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	伊藤 伸 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		高度数値シミュレーション学 機械力学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	伊藤 一志 (42) <令和4年4月> 博士(工学)
		総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	高橋 武彦 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		輸送機械特論 三次元CAD運用論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	須知 成光 (52) <令和4年4月> 博士(工学)
		高度数値シミュレーション学 エネルギーシステム学特論 再生可能エネルギー特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	野村 光由 (45) <令和4年4月> 博士(工学)
		機械構成論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	佐藤 俊之 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		制御工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	齋藤 敬 (52) <令和4年4月> 博士(工学)
		バイオエンジニアリング特論 スマート農業 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	岡本 洋 (54) <令和4年4月> 博士(理学)
		計測学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	松下 慎也 (44) <令和4年4月> 博士(理学)
		数理最適化特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	高山 正和 (59) <令和4年4月> 工学博士
		プラズマ物理学 エネルギー変換工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	山口 博之 (57) <令和4年4月> 博士(理学)
		固体物性工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	本間 道則 (50) <令和4年4月> 博士(工学)
		電子デバイス工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	草苺 良至 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		スマート農業 情報数理論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	齋藤 敬 (52) <令和4年4月> 博士(工学)
		バイオエンジニアリング特論 スマート農業 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	岡本 洋 (55) <令和4年4月> 博士(理学)
		計測学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	松下 慎也 (44) <令和4年4月> 博士(理学)
		数理最適化特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	高山 正和 (59) <令和4年4月> 工学博士
		プラズマ物理学 エネルギー変換工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	山口 博之 (57) <令和4年4月> 博士(理学)
		固体物性工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	本間 道則 (50) <令和4年4月> 博士(工学)
		電子デバイス工学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	草苺 良至 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		スマート農業 情報数理論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	石井 雅樹 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		スマート農業 画像情報学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	廣田 千明 (49) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		数値解析学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	高根 昭一 (55) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		音響情報工学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	渡邊 貫治 (45) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		統計的信号処理 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	クアドラ カルロス (62) <令和4年4月> 博士(工学)
		プレゼンテーション 建築構造解析論 都市防災学 建築基礎構造論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	石井 雅樹 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		スマート農業 画像情報学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	廣田 千明 (49) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		数値解析学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	
専	准教授	渡邊 貫治 (46) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		統計的信号処理 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	クアドラ カルロス (62) <令和4年4月> 博士(工学)
		プレゼンテーション 建築構造解析論 都市防災学 建築基礎構造論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	石山 智 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		建築材料工学 木質構造実習 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 建築インターンシップ研修A 建築インターンシップ研修B 建築インターンシップ研修C 建築インターンシップ研修D 建築インターンシップ研修E 建築インターンシップ研修F 建築インターンシップ研修G 建築プロジェクト実習 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	込山 敦司 (53) <令和4年4月> 博士(人間科学)
		視環境・色彩計画学 建築環境設計論 都市・建築設計論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	嶋崎 真仁 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		現役社長の講話 環境型生産管理論 実践経営工学 地域産業活性演習 経営情報システム特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	鈴木 一哉 (49) <令和4年4月> 博士(システムズ・マネジメント)
		スマート農業 データ駆動型社会論 応用情報処理特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	石山 智 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		建築材料工学 木質構造実習 都市・建築設計(演習)A 都市・建築設計(演習)B 都市・建築設計(演習)C 建築インターンシップ研修A 建築インターンシップ研修B 建築インターンシップ研修C 建築インターンシップ研修D 建築インターンシップ研修E 建築インターンシップ研修F 建築インターンシップ研修G 建築プロジェクト実習 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	込山 敦司 (53) <令和4年4月> 博士(人間科学)
		視環境・色彩計画学 建築環境設計論 都市・建築設計論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	嶋崎 真仁 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		現役社長の講話 環境型生産管理論 実践経営工学 地域産業活性演習 経営情報システム特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	教授	鈴木 一哉 (49) <令和4年4月> 博士(システムズ・マネジメント)
		スマート農業 データ駆動型社会論 応用情報処理特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	星野 満博 (54) <令和4年4月> 博士(理学)
		経営数理解析特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	嶋崎 善章 (56) <令和4年4月> Ph. D (Economics)
		経営経済学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	菊地 英治 (60) <令和4年4月> 工学博士
		知的所有権論A ライフサイクルデザイン製品技 術論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	川島 洋人 (45) <令和4年4月> 博士(工学)
		分析化学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
兼任	教授	尾藤 輝夫 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		プレゼンテーション ナノ材料学
兼任	教授	下井 信浩 (63) <令和4年4月> 博士(工学)
		ロボット工学特論
兼任	教授	杉本 尚哉 (54) <令和4年4月> 博士(理学)
		高度数値シミュレーション学 プラズマ工学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	星野 満博 (55) <令和4年4月> 博士(理学)
		経営数理解析特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	嶋崎 善章 (56) <令和4年4月> Ph. D (Economics)
		経営経済学 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	菊地 英治 (60) <令和4年4月> 工学博士
		知的所有権論A ライフサイクルデザイン製品技 術論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
専	准教授	川島 洋人 (45) <令和4年4月> 博士(工学)
		分析化学特論 総合システム工学専門セミナー 総合システム工学特別研究
兼任	教授	尾藤 輝夫 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		プレゼンテーション ナノ材料学
兼任	教授	下井 信浩 (63) <令和4年4月> 博士(工学)
		ロボット工学特論
兼任	教授	杉本 尚哉 (54) <令和4年4月> 博士(理学)
		高度数値シミュレーション学 プラズマ工学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	戸花 照雄 (53) <令和4年4月> 博士(工学)
		標準化論A 通信システム特論
兼任	准教授	浅野 耕一 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		建築環境設計論 都市環境論 都市・建築史論 都市防災学
兼任	准教授	金澤 伸浩 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		環境リスク管理技術特論
兼任	准教授	梁 瑞録 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		標準化論A ライフサイクルアセスメント
兼任	助教	アヴァンツィ・カルロッタ (41) <令和4年4月> 修士(文学)
		英語プレゼンテーションA
兼任	准教授	山崎 健一 (49) <令和4年4月> 博士(文学)
		実践英語A
兼任	教授	高橋 秀晴 (65) <令和4年4月> 教育学修士
		風土・文化構造論
兼任	教授	渡部 諭 (66) <令和4年4月> 教育学修士
		感性情報と環境の心理

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	戸花 照雄 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		標準化論A 通信システム特論
兼任	准教授	浅野 耕一 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		建築環境設計論 都市環境論 都市・建築史論 都市防災学
兼任	准教授	金澤 伸浩 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		環境リスク管理技術特論
兼任	准教授	梁 瑞録 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		標準化論A ライフサイクルアセスメント
兼任	助教	アヴァンツィ・カルロッタ (41) <令和4年4月> 修士(文学)
		英語プレゼンテーションA
兼任	准教授	山崎 健一 (50) <令和4年4月> 博士(文学)
		実践英語A
兼任	教授	高橋 秀晴 (65) <令和4年4月> 教育学修士
		風土・文化構造論
兼任	教授	渡部 諭 (66) <令和4年4月> 教育学修士
		感性情報と環境の心理

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	鈴木 祐丞 (43) <令和4年4月> 博士(文学)
		科学技術と倫理
兼任	准教授	小松田 義貞 (61) <令和4年4月> 文学修士
		地域社会と家族
兼任	准教授	内山 応信 (47) <令和4年4月> 博士(学術)
		生体情報と運動の生理
兼任	教授	高田 克彦 (60) <令和4年4月> 博士(農学)
		木質資源循環論
兼任	教授	栗本 康司 (59) <令和4年4月> 博士(農学)
		木質資源循環論
兼任	准教授	足立 幸司 (45) <令和4年4月> 博士(農学)
		プレゼンテーション ナノ材料学
兼任	准教授	櫻井 健二 (54) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	准教授	横尾 正樹 (48) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	教授	吉田 康德 (53) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
		渡邊 潤 (44)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	鈴木 祐丞 (44) <令和4年4月> 博士(文学)
		科学技術と倫理
兼任	准教授	小松田 義貞 (61) <令和4年4月> 文学修士
		地域社会と家族
兼任	准教授	内山 応信 (48) <令和4年4月> 博士(学術)
		生体情報と運動の生理
兼任	教授	高田 克彦 (60) <令和4年4月> 博士(農学)
		木質資源循環論
兼任	教授	栗本 康司 (60) <令和4年4月> 博士(農学)
		木質資源循環論
兼任	准教授	足立 幸司 (45) <令和4年4月> 博士(農学)
		プレゼンテーション ナノ材料学
兼任	准教授	櫻井 健二 (54) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	准教授	横尾 正樹 (48) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	教授	吉田 康德 (53) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
		渡邊 潤 (44)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	(44) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	准教授	山本 聡史 (47) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	准教授	上田 賢悦 (50) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	(44) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	准教授	山本 聡史 (47) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	准教授	上田 賢悦 (50) <令和4年4月> 博士(農学)
		スマート農業
兼任	講師	高根 昭一 (55) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		音響情報工学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

特になし。

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none">令和4年3月高根昭一准教授就任辞退。担当科目の「音響情報工学」は講師としておいでいただき開講予定。令和4年4月宮本道子教授専任教員辞退。令和4年4月齋藤敬先生、嶋崎真仁先生、鈴木一哉先生3名が准教授から教授に昇格。

- (注)
- 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
25	27	-	-	52	0	26	25	-	-	51	0
(25)	(27)	(-)	(-)	(52)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
25	27	-				26	25	-			
(-)	(-)	(-)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
26	25	-	-	51	0	26	25	-	-	52	0
[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
26	25	-				26	25	-			
[1]	[Δ1]	[0]									

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
67	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{51}{52} = \boxed{98.07} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{51} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	高根 昭一	R4.3	選択	音響情報工学	②	R4.3.31付け本学退職のため辞任（4）			
				必修	総合システム工学専門セミナー	①				
				必修	総合システム工学特別研究	①				
合計（D）			後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	2	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	宮本 道子	R4.4	必修	総合システム工学専門セミナー	①	R4.4.30付け本学退職のため辞任（4）			
				必修	総合システム工学特別研究	①				
合計（F）			後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）			後任補充状況の集計（E）+（G）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	4	科目	計	1	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{52} = 3.84\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<ul style="list-style-type: none"> ・ 高根准教授の担当科目の「音響情報工学」は、本学に講師としておいいただき開講予定。「総合システム工学専門セミナー」と「総合システム工学特別研究」は多数の教員が担当しており、退職による辞任の影響は無い。 ・ 宮本教授の担当科目「総合システム工学専門セミナー」と「総合システム工学特別研究」についても同じ状況であり、多数の専任教員が担当している科目である。指導する学生も辞任時点でいなかったため、辞任による影響はほとんどなかった。 ・ 今後は後任の教員を検討し、適正な教員配置と指導体制の確立に努める。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<システム科学技術研究科 博士前期課程 総合システム工学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>秋田県立大学教務・学生委員会規程（別紙1）</p> <p>秋田県立大学教務・学生委員会ファカルティ・デベロップメント専門部会設置要綱（別紙2）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>教務・学生委員会：概ね四半期に一度開催</p> <p>FD専門部会：年度当初に定例開催、必要に応じて随時開催</p> <p>FD専門部会システム科学技術分会：年度当初に定例開催、必要に応じて随時開催</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>（FD専門部会審議事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FDの啓蒙及び周知に関すること 2. FD事業の基本計画及び実施計画の策定並びに総括に関すること 3. FD事業の実施及び取りまとめに関すること 4. その他FDに関すること <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師によるFD講演会 ・ シラバスの充実に向けた企画立案 ・ オフィスアワーの実施 ・ 学生を対象とした授業アンケートの実施 ・ 他教員の授業を参観する授業公開の実施 ・ 教職員研修会の実施 ・ ティーチングポートフォリオの導入（学部での作成率78.7%） ・ その他、学外FDセミナーへの参加 <p>b 実施方法</p> <p>FD専門部会（全学組織）でFD活動の基本方針を決定し、その基本方針の下、システム科学技術分会において学部・研究科内のFD事業実施計画を定め、実施している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p>
--

令和4年度の事業計画は概ね前年度と同様の事業実施を予定している。

令和3年度の事業実績は以下のとおりである。

(令和3年度実績)

- ・ F D講演会「教学IRの活用を考える～教学マネジメントの考え方から教育改善に資するデータまで～」
開催日：令和3年9月7日（金） 講師：関西大学教育推進部 教授 山田 剛史 氏 参加者数：90名
- ・ 学部授業アンケート：前期と後期に分けて実施。前期実施率97.8%、後期実施率98.2%
- ・ 大学院授業アンケート：既存専攻 前後期課程の修了予定学生47名に実施。26名より回答あった。
- ・ 授業参観：5科目（1科目はコロナの影響により中止）、延べ7名の参観者があった。

・ 教職員研修会

①令和3年度新任教員研修会

開催日：令和3年4月2日（金）

内 容：教務・学生指導・FDについて

参加者数：2名

②学部FD講演会

開催日：令和3年9月28日（月）

内 容：「教育のDX化の推進について ～1コマの授業から考える」

講 師：東京理科大学 教育支援機構教職教育センター 教授 渡辺 雄貴 氏

参加者数：49名

③学部FD勉強会

開催日：令和4年3月15日（月）

内 容：「成績評価の方法について」

参加者数：26名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果を踏まえ、各学科、専攻ごとに検討を行い次年度以降の授業改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有：今年度新専攻学生にも実施予定。（8月頃）

b 教員や学生への公開状況、方法等

学内教務委員会や教授会等で報告予定。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

総合システム工学専攻は令和4年度に開設し、教育・研究活動を開始したところである。
自己点検・評価については「秋田県立大学自己評価委員会」の下で定期的に自己点検・評価を行うこととしている。
併せて第三者による評価も行う予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年度以降

b 公表方法

- ・本学HPを活用して各種の情報を発信している。報告書等についても主に当該HPを活用した公表を予定しているが、ほか公表の方法等はパンフレット等を活用し、広く社会へ提供していく予定である。

③ 認証評価を受ける計画

- ・今年度（令和4年）に評価機関（大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で準備中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

秋田県立大学教務・学生委員会規程

平成18年4月1日

規程第142号

改正 平成20年4月1日

改正 令和 3年1月6日

改正 令和 4年3月9日

(設置)

第1条 秋田県立大学に教務・学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業科目の履修等に関すること。
- (2) 学生の入学、休学、転学、卒業等に関すること。
- (3) 学生の課外活動及び学生の団体に関すること。
- (4) 学生の保健管理に関すること。
- (5) 学生の奨学金に関すること。
- (6) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- (7) 学部及び大学院の教育並びに学生支援の検証と改善に関すること。
- (8) その他教務及び学生生活に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教育本部長
 - (2) 学部ごとの教員（但し、教授又は准教授に限る。以下同じ。）のうちから選出された者各1名
 - (3) 研究科ごとに教員のうちから選出された者各1名
 - (4) 総合科学教育研究センターの教員のうちから選出された者1名
 - (5) 木材高度加工研究所の教員のうちから選出された者1名
- 2 前項第2号から第5号までに掲げる委員は、各学部長、各研究科長、総合科学教育研究センター長、木材高度加工研究所長の推薦に基づき教育本部長が指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合には、教育本部長は、前条の方法により補欠の委員を指名する。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教育本部長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故のあるときは、あらかじめ委員長の指名を受けた者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数を持って決し、可否同数のときは、議長の決するところによ

(専門部会)

第7条 委員会に、専門の事項を審議させるため必要があるときは、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び運営については、委員長が定める。

(関係者の意見聴取)

第8条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又はその意見を聴くことができ

(議事要旨)

第9条 委員会の議事要旨は、事務局職員が作成し、教育本部長が保管する。

(会議の非公開)

第10条 委員会の会議は、公開しない。

(委任)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育本部長が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年1月6日から施行する。

附 則 (令和4年3月9日改正)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

秋田県立大学教務・学生委員会ファカルティ・デベロップメント専門部会設置要綱

平成18年 4月 1日
秋田県立大学教育本部長決定
改正 平成20年12月 1日
改正 令和 3年 7月 6日

(設置)

第1条 大学として教育内容改善の組織的取り組みを実施する等のため、秋田県立大学教務・学生委員会にファカルティ・デベロップメント専門部会（以下「部会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 部会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 ファカルティ・デベロップメント（以下「FD」という）の啓発及び周知に関すること。
- 二 FD事業の基本計画及び実施計画の策定並びに総括、改善に関すること。
- 三 FD事業の実施及び取りまとめに関すること。
- 四 その他FDに関すること。

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員5名をもって組織し、うち2名は、第10条第3項各号に掲げる区分ごとに、教務・学生委員のうちから選出するものとする。

- 一 各学部の教授及び准教授（以下「専任教員」という。）のうちから選出された者 各1名
- 二 各研究科の専任教員のうちから選出された者 各1名
- 三 総合科学教育研究センターの専任教員のうちから選出された者 1名

2 前項第1号及び第2号に掲げる委員は学部又は研究科の教授会で、同項第3号に掲げる委員は総合科学教育研究センターの協議会でそれぞれ選出する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(部会長)

第5条 部会に部会長を置き、部会長は委員のうちから互選により選出する。

(会議の招集及び議長)

第6条 部会は、部会長が招集し、議長となる。

(定足数)

第7条 部会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(議決)

第8条 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 事項が特に緊急の処理を必要とするものであるときには、前条及び前項の規定にかかわらず、部会長が適当と認める方法により議決することができる。

(関係者の意見聴取)

第9条 部会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又はその意見を聴くことができる。

(分会等)

第10条 第2条第3号に掲げる事項その他必要な事項を審議するため、部会にシステム科学技術分会及び生物資源科学分会を置く。

2 分会は、次に掲げる分会委員をもって組織する。

- 一 システム科学技術分会

システム科学技術学部・システム科学技術研究科専任教員	各学科1名以上
総合科学教育研究センター専任教員	1名以上
- 二 生物資源科学分会

生物資源科学部、生物資源科学研究科専任教員	各学科1名以上
総合科学教育研究センター専任教員	1名以上
木材高度加工研究所専任教員	1名以上
アグリイノベーション教育研究センター専任教員	1名以上

3 前項に掲げる分会委員は、システム科学技術分会においては、学部長が総合科学教育研究センター長と合議の上、また、生物資源科学分会においては、学部長が総合科学教育研究センター長およびアグリノベーション教育研究センター長と合議の上、指名する。

4 第4条の規定は、分会委員について準用する。

5 分会に分会長を置き、分会長はその分会に属する分会委員の互選により定める。

(準用)

第11条 第6条から第9条までの規定は、分会について準用する。この場合において、「部会」とあるのは「分会」と、「部会長」とあるのは「分会長」と、「委員」とあるのは「分会委員」とそれぞれ読み替えるものとする。

(議事要旨)

第12条 部会の議事要旨は、事務職員が作成し、議長の承認を受けた後、教育本部長が保管する。

(会議の非公開)

第13条 部会の会議は、公開しない。

(委任)

第14条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、教育本部長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 3年7月6日から施行する。